

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
なかま編集委員会
〒285-0025
佐倉市鏑木町 198-3
電話 (043) 485-1801

東京マラソンボランティア ----- 齋藤 雄 中国を旅して ----- 中村 一郎
白井城について (太田道灌と上杉謙信) -- 安保 昌浩 根室の鮭 ----- 阪井 二郎

「学校でのいじめ」について

はつと
服部 一宏

学校に於けるいじめの問題が、最近までも、大きな社会問題として、新聞やTVのニュースで取り上げられていま

す。 当世、老若男女を問わず、総じて、社会や世間に対峙して、自分の生き方や、信念を独り静かに問い直してみる習慣や機会がほとんど無くなつて居ます。IT産業が人間に、目も眩むような情報と楽しみをもたらし、心の外からの事象に我を忘れ、酔いしれてしまつていて、心の内面の事を忘れ、世間の、人として恥ずべき現象が出てきても其れに氣をとめ熟慮する人がほとんど居なくなつてしまひました。正常な世間なれば、人はそれに気付き、謙虚に身の回りで起きていることに對して自分の考え方を整理し、い

ざとなれば信念を持つて行動するものです。また、この様な内省体験を多く持つ程、人はより高貴な人に目覚めて行きます。

理想主義者とか、世間知らずと平然と貶めて憚らない。学校での「いじめ」の現場にいても、其れを止めに入る勇氣ある行動はほとんど無く、逆にいじめめる者の尻馬に乗つて更にいじめている例が多い様子です。

数多くの悪しき社会現象の典型が、小中高校生のいじめ問題だと思ひます。我々高齢者が昔修身の時間に色々な徳目を学んだが、その中に、「人間として卑怯なこと、恥ずべき事をしてはならない。弱い者いじめは、卑怯な行為の典型である」と教えられ、人が見ていようと居まいと、この教えを忠実に守ろうとした事を覚えています。

いじめに関わる被害者、加害者に限定せず其れを取り巻く社会の人々全体が、「学校でのいじめ」というテーマを胸に刻んで、新聞記事を前に静かに瞑想し、自分の考えを整理し、人間性を取り戻すための必要事項を信念として持つて行動することが、「いじめ撲滅」に極めて大切なことだと考えます。

最近の世情は、たまたま高貴な心情の行動を示す人に出会つても、周りを見回して、それに同調する人が少ないと見るや、卑怯な側に立つて、高貴な人の行動を冷笑し、理

特に、最大の責任者である全国の教育委員会が当事者意識を確り持つて猛省し、謙虚、誠実、真剣にこの考え方で問題解決に立ちあがる事を期待します。

(編集委員)

東京マラソン ボランテイア

その日は朝から曇りで寒かった。2012年2月26日、

私はJR佐倉始発快速久里浜行にて東京へ向かった。途中千葉から東京マラソンランナーとして参加の女性が、運良く空いた私の隣席に座った。

すかさず「頑張つて下さい」と声掛けしてから「楽しんで下さい」と言い換えれば良かったな、と自問自答した。『東京が一つになる日』のためにリーダーミーティングが都庁にて事前に三度も行なわれ、遠方から私もその都度足を運んだ。

ランナーの女性と東京駅で別れ、私は指定された活動場所の日比谷へ午前7時前に到着した。集合場所は日比谷マリンビル前。当日私の担当は大手町日比谷ブロック16区、日比谷公園側へ右折10地点手前と品川方向から折返し戻って20地点のコース整

理。ランナーの通過時刻がずれ、複雑な気配りを必要とする箇所、コース整理員17名のリーダーである。

東京陸協の担当者との連携も上手いきき、交通規制開始から終了後のカラーコーン等の設置、後片付けを含め一緒に行動してくれたボランテイアの皆さんに感謝の気持ちを伝え、午後終了してたった一日の活動の別れを惜しんだ。

この先3万6千人のランナーは、フィニッシュ地点の東京ビッグサイトへと進んで行く。真剣なランナー、ゆつくり楽しみながら走り去るランナー達、それを応援するため、に都心に集まった人達との感動のドラマである。

1万人のボランテイアとキヤプテンリーダーを含む630人のリーダーの一員として「あなたの笑顔がこちらになる」の充実感を味わった。

(石川 斉藤 雄)

中国を旅して

9月5日晴天に恵まれた「天安門」は観光客で溢れていた。工事中のため城壁の大部分は緑のシートで覆われていたが、巨大な「毛沢東」の肖像は輝いていた。警備員を横目にしながら正門を通り中広場に出ると、ガイドが登楼のためのチケットを配ってくれ、いよいよ登楼かと思いきや嚴重な関所があつて、空港並みのチェックを受けやつと念願の楼上に辿り着いた。そして早速、広場を見渡し「中村一郎ガンバレツ」と絶叫した。途端に一瞬ではあるが周囲の注目を浴びてしまった。毛沢東が建国宣言を行った立ち位地は、赤紐で囲われ立ち入りが禁止されていた。楼上には、建国に纏わる絵画や写真が整然と展示されていたのが印象に残った。

9月7日曇りである。昭和15年4月に入学した「錦州

富士在満小学校」を訪れた。小学国語読本「サイタサイタサクラガサイタ」を学んだことが脳裏に浮かぶ。ガイドの説明が終わつて専用車が止まり、下車すると新しい建物に「錦州中学」の文字が目に入った。3階建ての立派な校舎で、広々としたグラウンドもきれいに整備されていた。学校関係者と思われる人に手真似で事情を話すと、ニコリとして親切に説明してくれたが、言葉が通じずガイドを介して知ることができた。私が学んだ校舎は、5年前に老朽化によつて現在の校舎に建て替えられたということであつた。ガイドの話を聞くうちに胸が込み上げ目頭が熱くなった。日本人学校であつた跡地に立派な校舎が建ち、中国の子供たちが勉強に励んでいることを思うと嬉しさに駆られた。79歳の老爺の楽しい晩夏の旅であつた。

(西志津 中村 一郎)

臼井城について

(太田道灌と上杉謙信)

先日、「臼井城とその伝説の地を歩く」に参加しました。臼井城自体、印旛沼が自然の要塞であり五つの砦で固められていたため難攻不落であったと思われず。江戸城を築城した太田道灌と川中島で武田信玄と戦った上杉謙信が臼井城まで攻撃していることが驚きでした。その中で興味があったのは道灌と謙信は何故に攻めて、どんな戦いをしたのかということでした。

「太田道灌の臼井城攻撃」

文明十年(1478)、道灌と戦い敗退した下総千葉氏は臼井城へ逃げ帰った。それを追って翌年正月、道灌の弟太田図書軍勢が臼井城を包囲したが城の防備があまりに堅固で戦いは半年にも及んだ。一旦引き揚げようとしたその時、城兵がどつと討って出てこれに太田勢が反撃し激しい戦いとなり、遂に落城したが

図書外五十三人が討死にしたとのこと。

「上杉謙信の臼井城攻撃」

永禄九年(1566)三月、関東管領上杉謙信は北条氏の勢威を打ち破ろうと臼井城下に兵を進めた。両軍満を持して動かざること一月余り、謙信は落城寸前まで追い込むが攻め落とすことは出来ず。さる程に上杉氏の陣営へ足利將軍からの上洛を促す書状が着したため、翌四月越後へ引き揚げた。

王子台には一夜城の足跡がありました。臼井城の過去の発掘で二回の火災跡が確認されたが、まだ未発掘箇所があるとのこと、全容が解明されるのを祈念しております。戦国時代の古城臼井城の盛衰及びつわものどもの夢の跡に思いを馳せ、伝説とロマンを追求した散策でした。

(井野 安保 昌浩)



根室の鮭

十数年前の北海道根室市での話である。

道東一の根室の商店街も夜7時を過ぎると真つ暗、唯、道一本裏通りに入ると鮭の水揚げで赤提灯は賑やかに並んでいた。私は同僚と一軒の寿司屋で飲んでみた。

「何か旬のものでも」「やはり鮭ですね、ルイベ(鮭の脂ののった身を凍らせたもの)などどうですか?」。やがて皿に載ったルイベが出てきた。「いいですか、まだパリパリに凍っていますので私が合図したら5分で食べて下さい」。やがて合図が出る。ルイベを口に入れる。冷たさが口いっぱいに出る。直ぐに鮭の味がしみ出てくる。最高の一品。鮭の尾の身の刺身を食べた事があるがそれ以上の美味しさか。

「どうですか、今は良い鮭が獲れますので、うちは特別

なルートで仕入れをしますから」。東京に持ち帰りたいと言うと、「明日朝7時に、根室港に〇〇丸が入ります。降りてくる船員は鮭を一本買っていただけます。決して高く有りませんので」。

次の朝、私達は港で〇〇丸の船員の降りてくるのを待たが誰れ一人鮭を持っていない。「どうして」と聞こうと船員に近づくと、後ろからマイクで「其処の人、〇〇丸は昨日密漁で検査しました。用事が有るなら警察に来て下さい」。私達は一目散に宿に逃げかえった。

後日、何度か各地でルイベは食べたが今でも根室の鮭の味は忘れがたい。

(王子台 阪井 二郎)



3月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただきます。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043-485-1801

〒285-0025 佐倉市鏑木町198-3

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

桜木道

花は桜木、人は武士とは昔の話ですが、桜の花は日本人にとって華やかさと潔さを感じることが出来る特別な存在です。普段から消毒など手入れをしないと毛虫が大量発生して風情がなくなるのも事実です。

地元の小学校は道路から校門まで桜とイチョウの並木があります。この並木を守るため日頃から雑草を採ったり、

枝を払ったり、散らかったゴミを清掃したり、側溝のごみを取ったりと、環境美化に取り組んでいる人たちがいます。

特別ほめられる訳でもないのに一途な心が伝わってくる取り組みではないでしょうか。

この並木道を利用する人、わけても入学式や卒業式を迎える小学生の家族にとって、満開の桜は良い思い出となることでしょう。

(三田 俊郎)

あとがき

新聞の囲み記事に高齢者にとって大事なことは「きょういく」と「きょうよう」であるとあった。てっきり「教育」と「教養」だと思ったら、なんと「今日行く所がある」「今日用事がある」の意だそうだ。気力、体力に溢れる高齢者が濡れ落ち葉にならないため改めて生涯きょういくにより、きょうようを身につける必要があると思う。

幸い佐倉市民カレッジで

は、シニア層が地域の歴史や文化を学びながら、仕事に代わる新しい目標やライフワークを模索する場を提供している。

その成果が市民協働の対象となるような高邁なボランティア活動であろうと、はたまにお友達と過ごす楽しい趣味やスポーツのサークルになるとうと、きょうようときょういくを備えたシニア父さんもはや、奥様を困らすことにはないであろう。

(田村 孝則)